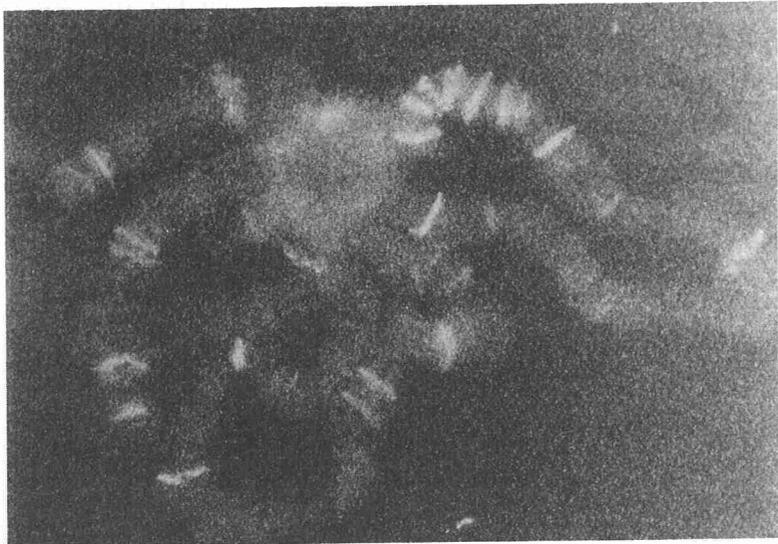
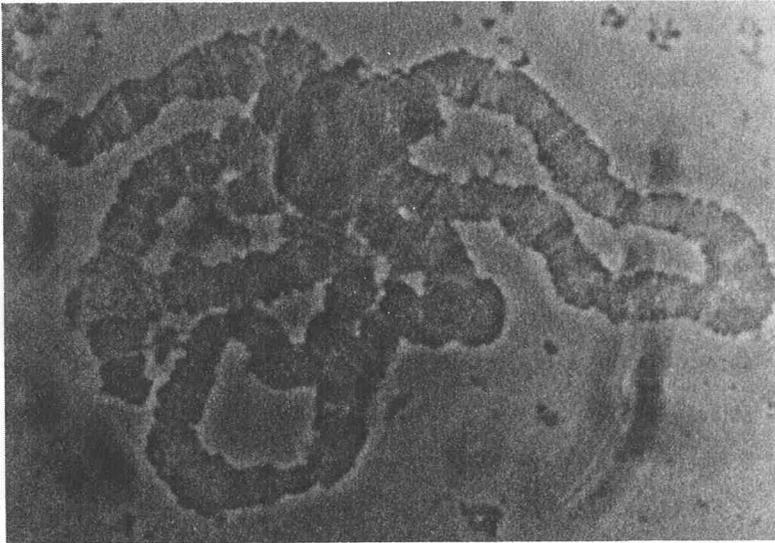


廣報

東京大学理学部



目次

表紙の説明	堀田凱樹	1
近頃思うこと	田丸謙二	2
五月祭雑感	平川浩正	4
アメリカの活力	西島和彦	5
<学部消息>		6

表紙の説明

ショウジョウバエ唾腺染色体における特定DNA塩基列の存在するバンドを光らせる方法。(In situ hybridization 法)

上の図は、「動く遺伝子」Pエレメントを持つ系統の唾腺染色体を、顕微鏡スライドガラス上に拡げたもの。固定・熱処理・アルカリ処理を行って染色構造や2本鎖DNA構造を適度にゆるめて位相差顕微鏡でみたもので、染色体のバンドやパフが見える。

下の図は、クローニングされたPエレメントDNA(約3キロ塩基対)にビオチンをつけたプローブを上図と同じ標本にかけ、相補的な染色体DNA部分に結合させたもの。さらに抗ビオチンヤギ抗体、FITC(蛍光色素)結合抗ヤギ免疫グロブリン抗体を順次与えて、蛍光顕微鏡で観察した。原図ではPエレメントを含むバンドが緑色に明るく光って見える。染色体の他の部位はエバンスブルー対抗染色により赤く光っている。

この方法により、クローニングされた遺伝子の染色体上の位置の判定、あるいは「遺伝子治療」で人為的に新しい遺伝子を染色体に挿入した場合、その位置や個数の判定が容易に行える。高等生物の遺伝子工学でショウジョウバエが有利な研究材料として注目される理由の一つはこのような技術が応用可能である点にある。

物理 堀 田 凱 樹

近頃思うこと

田丸 謙二

(東京理科大学理学部)

先日、東京大学の名誉教授の証書を頂戴出来るということで参上し、江上学部長や有馬評議員らと楽しく歓談していた折でした。談たまたま近況についての話しになって、つい口をすべらせた事柄が、是非広報に書きなさいということで、思いがけないことに、「一言多い」常習犯が泥の上塗りをする羽目になりました。

東京理科大学という私立の大学に4月から移って、毎日通っているうちに、これまでの長い間、東京大学にいた限りでは、何とも思わずに過ごしていたことが、案外な程に新鮮な印象として再確認されることもいくつか出て参ります。

まず気がついたことは、学生、職員も含めて、大学の中で皆がよく明るく挨拶することです。心なしか、生協まで態度が違っているようにさえ思えます。まだよく人の名も、顔も覚えていない私としては、見たような顔だなと思うと……(後になって、あれは東大のあの人と似ていたっけという場合も含めて)……ついおじぎをしたくなるような、そんな雰囲気にある……といったら言い過ぎでしょうか。研究室の学生でも「先生コピーするものがあったら言って下さい。運ぶものがありましたら……」こんな言葉を向うから言われた時の戸まどい……あゝここは東大ではないんだなということがあらためて意識されます。

4月に武道館での入学式に参列した時でした。「姿勢を正して!」、「学長先生に御挨拶、起立!! 礼!」、おじぎをすること4、5回もあったように記憶します。同じ場所でおこなわれる東京大学の入学式で学生がおじぎをしたことがあったかな、とあらためて思い出してみました。うる覚えではありますが、恐らく、「〇〇総長式辞」とか進行係がマイクで言って、壇上に学部長達と座っ

ていた総長が前に進み出て、学生は座ったまゝ、総長からおじぎして……という具合ではなかったでしょうか。「初めが肝心」この場合も言えそうです。

前に、ある教授が東工大から東大の工学部に移って来た時に、一緒について東大に移った助手が言っていました、東工大の学生は言わなくてもどんどん手伝ってくれたのに、東大の学生はダメ、明らかに違っているということでした。東大生ももう少し human に振る舞わないと、社会に出てとかく言われる原因の一つが案外こんな所にあるのではないかと思われます。東大という名の下に、そのような自己中心的な人間が出来やすいことが少しでもあるとしたら問題のように思えます。私にはむしろ、東大の学生は案外に無邪気で、悪気もなく、唯気がつかないだけのことで、むしろ教官側(教官側も似たことがあるかもしれませんが)のしつけの問題のようにも思えます。

理科大は千代田線の柏の駅から2、30分の所に広大なキャンパスがあり、瀟洒な図書館や噴水など新緑の中に輝いて見えました。第4グラウンドまである広大なグラウンドから森林公園まであって散歩するにもよい所です。宿泊施設もあり、神楽坂のキャンパスの学生が泊りがけで、体育やコンピューターの訓練を受けに行きます。正に少しこの土地を百坪でも神楽坂に持って行けないかと思える程です。

神楽坂のキャンパスは、中央線から見えますが、可哀想な位キャンパスらしい広場もありません。化学関係の学生に消火器の使い方を訓練する場所さえありません。しかし、高い建物からエレベーターで降りると、数十メートルの所には神楽坂のレストラン街がありますし、一寸行くともう駅(国

鉄、東西線、有楽町線）に着きます。正に「駅前大学」です。毎日通っていると、少くとも通勤には、キャンパスのないことは便利なのだという実感が得られます。

理科大に移ってもう一つ気がつくことは、大学の運営……その実体は何も知らないのですが……の能率のよいことではないでしょうか。事務関係の人がぐんと少くてやっているということです。学生総数は東大と大差なく、夜学もあるので夜は9時迄事務室、生協、図書館などが開いていますが、事務関係の人は夜学の人も含めても三百人位、整備工作関係を合わせても三百五十人位とのことです。病院や多くの研究所をもつ東大とは規模も違いますし、国立と私立の違いもあります、余りにも違う感じですが、もちろん教官側にそのしわ寄せがかかっていないということは出来ませんが、少くとも図書館など東大よりも使いやすいですし、

文献検索も図書の人が親切にやってくれました。文献のコピーをするのにもずっと便利に出来ます。（アメリカ式に大学院生の一部をteaching assistantとして手当てを払って学生実験の補助をやらせています）。このように見てみますと、東大のような所では、各人は忙しくよく働いているのに、組織自体が仕事を作っている感なきにしもあらずで、停年問題、定削問題などに直面して、ギリギリの状態になってはじめて、本当に原点に戻って考える時になるのかも知れません。すこし理科大のよい面だけ強調しすぎたかもしれませんが、唯一言、はっきり言えることは、自分がおかれている環境の中で、それなりにはめ込んだまゝ考えていると、硬直化した考えしか出て来ない。発想を転換して、周囲の条件を脱け出して見直してみると、案外に別の発想が湧いて来る。このことは何も科学に限ることではないようです。

●いつも泥棒がねらっている（盗難注意）！

本郷構内は泥棒天国といわれています。いたるところで泥棒（盗難）の被害にあっています。あなたのちょっとした注意で被害をくいとめられます。

～最近被害続出～

五月祭 雑感

平川浩正(物理)

高校(旧制七年)が東京だったので、五月祭にはオーケストラの応援で動員された。戦争たけなわのころ、三四郎池の辺の藤棚の下で野外演奏会をしたのを憶えているが、曲目は忘れてしまった。戦争後復活してベートーヴェンの「運命」とモーツァルトのコンチェルト「戴冠式」をやった。指揮は銀髪の長井維理氏、ピアノは法学部学生の藤田晴子さんである。モーツァルトでは金管の休む楽章がある。第三楽章でそれまでおとなしくしていた反動で威勢よく鳴らしたら、「同じフォルテでもベートーヴェンとは区別して吹いて下さい」と練習をみてもらっていた渡辺暁雄氏に注意された。演奏会が終ると各学部の展示を見にでかけ、かねて受験しようと思っていた物理学科のある一号館もおそろおそろのぞいてみた。計数管の実験装置の前で、一緒に行ったオーケストラの先輩に「なんですこの配線は、こんなきたないことで実験ができるものか」と云われて、自分のことのように恐縮した。彼は工学部電気工学科の学生だった。一号館の階段の壁には数学教室の賞品付の難問奇問が貼り出されており、解答受付室では沢山の人が考え込んでいる。

大学に入学したらまもなく五月祭になり、ウィルソンの霧箱の実験を手伝った。霧箱といっても線源はなかったので、「ここに放射線が通れば白い線が見えるはずですよ」と説明をするのである。当時は占領下で原子核関係の実験には制限があったが、いま考えてみると、線源があったとしてもあの装置でトラックが見えたかどうかはあやしいものだ。日曜の夕方になってお客さんがいなくなり片付けを終ると、講義室の机を並べかえて慰労のコンパがある。一年おいたあとの五月祭では、

もっと大きい霧箱とポロニウムの線源を使い α 線のトラックを出すことができた。当時は放射線源の扱い方など誰も注意してくれる人はいない。廊下の棚に KCN の 500 g ビンがおいてあるという大らかな時代であった。大学院で霜田研に入ってから、学部の学生の相談をうけて毎年の五月祭の実験テーマを考えどの装置を使うか工夫した。マイクロ波分光器でフォルムアルデヒド CH_2O の回転スペクトルを出してみせたことがあるが、この分子のスペクトルが後に宇宙空間で観測されるようになるとは思ひもしなかった。あの頃は学部全体、大学全体として五月祭に親近感があったのではなかろうか、自分の大学のものとして皆が力を貸したので実験や展示に迫力があつたと思う。熱心に質問する人がいるので説明する側もあらかじめ勉強する。物理の先生方にはあまりいじめられなかったが、工学部や外部の専門家が現れて質問され答えられなくなることもしばしばあつた。当番を組んで暇を作りよその展示や実験もみた。「三四郎」に書いてある運動会ほどかどうかは別として、五月祭の社会的地位は高かつたようで、朝刊には紹介がのり、お茶の水の停留所には「五月祭バスのりば」の看板が立ち、学校バスの増便が出て着飾った人々の行列ができた。

このごろの五月祭はどうだろう。自主的なのか見離されて研究室の協力がいいのか、実験・展示とも物足りない。プログラムは厚いけれども空虚な文字が並んでいる。さかんなのは喫茶に屋台ばかりだが、よくみれば数があるだけだ。誰が学生の入れたコーヒーをのみに出かけてくるのか知らないが、むなしいことである。そうして、ロックコンサートで、ばかな音を出して近所の人や町会

からどなりこまれたという話ばかりが毎年報道される。よくてもわるくても東大の年一度の行事だ。

もうすこしなんとかならないものだろうかと思う。

アメリカの活力

西島和彦(物理)

先日アメリカ中西部へ行った時のことである。シカゴの空港で乗継便を待っていると、アメリカ人の夫妻が、東洋人の赤坊を床に敷いた毛布の上で遊ばせていた。そのうちに赤坊は寝てしまった。夫妻は隣に坐っていた老人と話を始めた。聞くとはなしに聞いていると、この二人は韓国へ行ってこの赤坊を養子にしてきたとのことであった。二人は本当に嬉しそうな顔をしていた。アメリカ人が外国人の子供を養子にすることは、しばしば見聞することなので、このことは間もなく忘れてしまった。

ついでミシガン大学へ行った時に、古い友人の家へ招待された。彼には二人の娘がいるが、二人とも大学に入り親の手許から離れてしまったので、今度はニカラグアからの男の子を養子としたとのこと。早速その子を連れてきた。彼は初めはスペイン語しか話せなかったが、今では英語を自由に話すとのこと。色々聞いてみると彼は8才で3年生とのこと。そして学校は好きだが、また嫌なこともあると言っていた。

こうして続けざまに、アメリカ人が非白人を養子としているのを見ると考えさせられた。アメリカには実に様々な考え方の人々が居る。勿論アメリカは人種的偏見の強さでも有数の国である。今NHKのテレビでやっている「山河燃ゆ」は日系米人が人種的偏見の故に迫害を受けた話を扱っているし、また南部におけるKKKの活動も良く知られている。しかしながら他方において、あたかもその償いをしているかのような人々もいるのである。このようなことが出来るのはキリスト教精

神のためかとも思ったが、必ずしもそうではない。ちなみに私の友人はユダヤ系である。

このように一見して外国人とわかる子供を養子にするというようなことは、日本ではとても考えられない。アメリカと日本の社会の違いをこのような自由度に関して比べるならば、正に気体と結晶の違いぐらいあろう。そして寛大な方のアメリカ人は、とても日本人には考えられないくらい寛大である。

4月に台湾の清華大学を訪れた。この大学は、もともとアメリカ政府の出した基金により発足している。しかもその基金は、義和団事件に関係して清国政府がアメリカ政府に支払った賠償金から出ている。アメリカ政府はこのお金を中国人青年の教育のために使うようにと清国政府に託したのであった。初め、清華大学は教養課程のみの学校として出発し、後期の専門課程はアメリカの大学で受けるようなシステムになっていた。その後、後期の課程も清華大学で受けられるようになったが、多くの中国人学生をアメリカの大学へ送り出す基金を持っていた。パリティ非保存でノーベル物理学賞を受賞したコロンビア大学の李政道教授もその恩恵を受けた一人であったことを初めて知った。清華大学の教授のリストを貰った。その成立の歴史から明らかであるが、日本の大学で教育を受けた教授の数は誠に微々たるものであった。恐らく5%程度であろう。勿論アメリカ政府が清華大学のためにしたようなことを日本の政府に期待することは、金持が天国に行くよりも難しいことである。

アメリカの活力は、多くの人々が全く自由な発想を持ち、自由に実行出来るという点に存する。また人々の考え方はバラエティに富んでいる。

いま日本人の学生とアメリカの学生とを10人ずつ選び、10題の問題を解かせたらどういう結果になるかについて思考実験をしてみよう。日本人学生は10人とも、1番から8番まで完全に解いたが、9番と10番は誰も解けなかった。アメリカ人の学生はどうなったか？ 1番はA君しか解けなかった。2番はB君しか解けなかった。……9番はI君しか解けなかった。10番はJ君しか解けなかった。こうして日米比較をすると、平均点は確かに日本の方が高い。しかしアメリカにはどんな問題でも必ず解ける人がいる。従って時間が経てばすべての人が、すべての問題の解答を知るようになる。

それに反して日本では、初めから大部分の問題の解答をすべての人が知っている。しかし皆が同じ考え方をするので解けないものは何時まで経っても誰にも解けない。そして最後はアメリカから習うことになる。

日本人は平均的知力において優れているが、アメリカ人は発想の多様性において、すなわち知的エントロピーにおいて優れていると言えるであろう。最近問題になっている共通一次試験においても、せめて複数の正解を与えて、どれを選んでも良いようにするぐらいのことはしたいものである。出来る人が多勢いても、全員が同じ考え方をすれば、大部分の人は何も新しいことが出来ないことになる。

《学部消息》

教授会メモ

5月16日(水) 定例教授会

理学部4号館1320号室

- 議題 (1) 前回議事録承認
(2) 人事異動等報告
(3) 昭和59年度受託研究員の受入れについて
(4) 寄附の受入れについて
(5) 人事委員会報告
(6) その他

6月20日(水) 定例教授会

理学部4号館1320号室

- 議題 (1) 前回議事録承認
(2) 人事異動等報告
(3) 昭和59年度免許教科に関する認定科目表について
(4) 寄附の受入れについて
(5) 人事委員会報告
(6) 教務委員会報告
(7) 企画委員会報告
(8) その他

次回以降開催予定日

7月18日(水) 13時30分より

8月 休会

9月12日(水) 13時30分より

10月17日(水) 同上

人 事 異 動 報 告

(講師以上)

所属	官 職	氏 名	発令年月日	異動報告	備 考
数 学	助 教 授	加 藤 和 也	59. 5. 16	昇 任	講師から
物 理	助 教 授	中 井 浩 二	59. 5. 16	昇 任	高工研教授へ
物 理	教 授	”	59. 6. 1	併 任	本務：高工研教授

(助 手)

化 学	助 手	正 田 晋一郎	59. 4. 1	休 職	59. 4. 1 ~ 60. 3. 31
地 質	助 手	永 原 裕 子	59. 5. 1	採 用	
物 理	助 手	高 田 康 民	59. 5. 28	辞 職	
物理研	助 手	山 本 隆	59. 6. 1	休 職	59. 6. 1 ~ 60. 5. 31
物 理	助 手	BENTZ WOLFGANG HERRMANN	59. 6. 1	採 用	
物 理	助 手	最 上 要	59. 6. 1	授 用	

(職 員)

事務部	事 務 官	田 川 俊 一	59. 5. 1	配 置 後	地物研より
地物研		川 村 正 義	59. 5. 1	配 置 後	事務部より併任
物 理	事 務 官	茅 根 瑞 穂	59. 5. 1	転 任	高工研へ
化 学	技 官	早 瀬 敦	59. 5. 21	採 用	
天 文	事 務 官	小 俣 春 江	59. 5. 16	採 用	
物 理	技 官	田 中 万 博	59. 6. 1	昇 任	高工研助手
物 理	事 務 官	南 木 葉 子	59. 6. 16	採 用	
物 理	事 務 官	大 橋 真理子	59. 6. 30	辞 職	
植物園	技 能 員	小 林 貞 夫	59. 6. 30	辞 職	(停年・勸奨)

理学部委員会委員等名簿抄（順不同）

昭和 59. 5. 1 現在

委員会等の名称	氏 名 (所属) ・ [◦印は長]	任 期 (年)	備 考
企画委員会	◦西島 (物), 宮沢 (生), 田村 (数), 飯野 (植), 海野 (天), 飯山 (質), 有馬 (物), 大木 (化), 宮沢 (物), 和田昭 (物), 後藤 (情), 会計委員長・田隅 (化) 〔山崎 (物) 〕	59. 4. ~	石渡・神戸 福井・蓮見 三浦俊 (事務部)
人事委員会	◦朽津 (化), 酒井 (生), 水野 (動), 木村 (数), 米田 (情), 和田昭 (物)	~ 60. 3. 31 (2) ~ 61. 3. 31 (2)	
会計委員会	◦田隅 (化), 尾本 (人), 上田 (動), 二宮 (物), 堀 (天), 小松 (数)	~ 60. 2. (2) ~ 61. 2. (2)	
教務委員会	◦橋本 (物), 前川 (情), 杉ノ原 (球), 落合 (数), 増田 (化), 佐藤 (植), 島崎 (質), 〔佐佐木 (化) 58. 4. 1 ~ (2)〕	~ 59. 9. 30 (2) ~ 60. 9. 30 (2)	
広報委員会	◦矢崎 (物), 尾本 (人), 佐佐木 (化), 松野 (球), 田賀井 (鉦)	59. 4. ~	
学生委員	荒田 (生)	52. 2. 1 ~	
紀要委員会	◦代谷 (動), 伊原 (数), 飯島 (質), 西田 (人), 岩槻 (園)	59. 4. 1 ~	
環境安全委員会	◦稲本 (化), 飯田 (物), 武田 (鉦), 井上 (生), 石井 (動) ~ 59. 7. 31	59. 4. ~	
放射線管理 委員会	◦富永 (化), 室伏 (生), 脇田 (殻), 代谷 (動), 堀田 (物) 〔薬袋 (化) 〕	59. 4. 1 ~	
防災委員会	◦江上 (動), 有馬, 飯山 (質), 宮本 (物), 上田 (動), 宮沢 (生), 飯島 (質), 高橋 (化), 二宮 (物), 石渡 (事)		
企画委員会建物 小委員会	◦大木 (化), 小松 (数), 小林俊 (物), 後藤 (情), 古谷 (植), 熊澤 (球), 高倉 (天), 歌田 (質), 荒田 (生)		石渡・神戸・ 福井・蓮見・ 三浦俊 (事務部)
企画委員会第二 キャンパス 小委員会	◦有馬 (物), 宮本 (物), 和田昭 (物), 古谷 (植), 飯山 (質)		

委員会等の名称	氏 名 (所属) ・ [◦印は長]	任 期 (年)	備 考
企画委員会 コンピューター 小委員会	◦後藤 (情), 小柴 (物), 有馬 (物)		
企画委員会60年 問題小委員会	◦有馬 (物), 古谷 (植), 久城 (質), 増田 (化), 宮沢 (生), 朽津 (化), 田隅 (化)	(58.12 ~) 59. 4 ~	
理学研究国際 交流センター 準備委員会	◦大木 (化), 藤田 (数), 後藤 (情), 二宮 (物), 上田 (動)		
組換えDNA 実験安全委員会	◦和田昭 (物), 岡田 (生), 鈴木 (植), 富永 (化), 堀田 (物) 〔溝淵 (生) 〕		
発 明 委 員 会	◦山田 (情), 不破 (化), 山崎 (物), 露木 (化), 酒井 (生), 久城 (質), 石渡 (事)		
百年史編集 委 員 会	◦飯田 (物), 伊藤 (数), 堀 (天), 佐藤 (球), 田隅 (化), 溝淵 (生), 水野 (動), 佐藤 (植), 遠藤 (人), 飯山 (質), 武田 (鉦), 阪口 (理), 後藤 (情), 重井 (臨), 〔※大場 (園) 〕, 福島 (施), 石渡 (事)		※ 総合研究資 料館
視聴覚小委員会	高橋 (動)		
図 書 委 員 会	◦黒田 (化), 山田 (情), 松本 (数), 清水 (物), 吉村 (天), 鈴木 (球), 荒田 (生), 八杉 (動), 笠原 (植), 西田 (人), 鎮西 (質) [兼 (鉦)] 久保 (理), 石渡 (事)	~ 61. 3. 31 (2)	
植 物 園 運 営 委 員 会	◦岩槻 (園), 古谷 (植), 安楽 (植), 飯野 (植), 佐伯 (植), 田沢 (植), 加藤 (園), 渡辺 (園)		石川 (応微 研)
素 粒 子 物 理 国際センター 運 営 協 議 会	◦江上 (動), 有馬 (物), 飯山 (質), 小柴 (物), 宮沢 (物), 宮本 (物), 西島 (物)	59. 4. 11 ~	西川 (高工研) 山口(核研)
素 粒 子 物 理 国際センター 運 営 委 員 会	◦西島 (物), 藤井 (物), 山崎 (物), 小柴 (物), 宮沢 (物), 宮本 (物), 山本 (物), 釜江 (物), 折戸 (物), 戸塚 (素), 山田 (素)	59. 4. 11 ~	
中間子科学実験 施設運営協議会	◦江上 (動), 有馬 (動), 飯山 (質), 宮沢 (物), 山崎 (物)	~ 61. 3. 31 (2)	西川 (高工研)
中間子科学実験 施設運営委員会	◦宮沢 (物), 山崎 (物), 矢崎 (物), 藤井 (物), 釜江 (物), 山本 (物), 折戸 (物), 永宮 (物), 近藤 (化), 永嶺 (中), 小林俊 (物)	~ 61 3. 31 (2)	堂山 (工学部) 安岡 (物性研)
分光化学センタ ー 運 営 委 員 会	◦黒田 (化), 古谷 (植), 和田昭 (物), 田隅 (化), 不破 (化), 稲本 (化), 宮沢 (生)		

委員会等の名称	氏 名 (所属) ・ [○印は長)	任 期 (年)	備 考
遺伝子実験施設 理学部 運営協議会	○江上 (動), 有馬 (物), 飯野 (植), 和田昭 (物), 岡田 (生)	58. 5. 18 ~ 60. 3. 31 (2)	
遺伝子実験施設 理学部 運営専門委員会	○飯野 (植), 堀田 (物), 溝淵 (生), 鈴木 (植) 米田 (遺)	58. 5. 18 60. 3. 31 (2)	

○昭和59年度科学研究費補助金採択 (内定) さる

本年度科学研究費補助金の交付申請に対し、こ 理学部関係の申請件数および採択件数は次表の
 のたび、本学事務局経由で一部を除き同補助金の とおり。
 採択 (内定) 通知がありました。

昭和59年度科学研究費補助金理学部申請・採択件数一覧表

昭 59. 6. 16 現在

研究種目	申請件数	採 択 件 数			採 択 率
		新 規	継 続	計	
がん特別研究(1)	2	2	0	2	100 %
がん特別研究(2)	3	0	0	0	0
自然災害特別研究(1)	1	1	0	1	100
自然災害特別研究(2)	2	2	0	2	100
環境科学特別研究(1)	5	5	0	5	100
環境科学特別研究(2)	1	1	0	1	100
エネルギー特別研究 (エネルギー (1))					
エネルギー特別研究 (エネルギー (2))	3	0	0	0	0
エネルギー特別研究 (核 融 合 (1))					
エネルギー特別研究 (核 融 合 (2))	2	2	0	2	100
特 定 研 究 (1)	8 (1)	5	0	5	62.5
特 定 研 究 (2)	18 ①	7	0	7	38.9

研究種目	申請件数	採 択 件 数			採 択 率
		新 規	継 続	計	
総合研究 (A)	26 (9)	10	9	19	73.1 %
総合研究 (B)	7	3	0	3	42.9
一般研究 (A)	19 (6)	3	6	9	47.4
一般研究 (B)	62 (18)	7	18	25	40.3
一般研究 (C)	83 (10) ①	24	10 ①	34 ①	41.0
奨励研究 (A)	64	33	0	33	51.6
試験研究 (1)	6 (1)	0	2	2	33.3
試験研究 (2)	22 (2)	4	5	9	40.9
海外学術調査	7	7	0	7	100
計	341 (47) ②	116	50 ①	166 ①	48.7

() 継続申請で内数

○ 遺伝子実験施設外数

なお、この科学研究費補助金は、わが国の学術研究の振興に寄与するための研究助成費であり、今年度予算額 405 億円のうち今回配分が内定されたものは 328 億円。種目別配分内定結果は次表

(教育学術新聞、昭 59.5.23 付) のとおりである。本学関係の詳細については、おって学内広報に掲載されよう。学術研究の振興に寄与されることをおおいに期待する。

昭和 59 年度分 科研費種目別配分内定結果 (継続課題を含む)

研究種目	研究課題数			配分額	1 課題当り配分額	
	申請	採 択	採択率		平均	最高
	件	件	%	千円	千円	千円
がん特別研究	967	219	22.6	1,965,500	8,979	93,900
自然災害特別研究	300	93	31.0	488,500	5,253	46,600
環境科学特別研究	431	146	33.9	902,500	6,182	95,000
エネルギー特別研究	780	312	40.0	1,975,000	6,330	70,000
特 定 研 究	2,131	592	27.8	5,006,000	8,456	54,500
総合研究 (A)	1,590	655	41.2	2,447,000	3,736	15,000
総合研究 (B)	302	80	26.5	187,100	2,339	4,800
一般研究 (A)	1,333	453	34.0	4,001,100	8,832	35,000
一般研究 (B)	7,231	2,028	28.0	5,226,700	2,578	8,500
一般研究 (C)	17,807	3,900	21.9	4,455,800	1,143	2,900
奨励研究 (A)	12,835	3,762	29.3	3,239,100	861	1,200
試験研究	3,793	814	21.5	2,914,250	3,580	29,000
計	49,500	13,054	26.4	32,809,550	2,513	95,000
昭和 58 年度分		12,965	28.4	31,900,000		

理学部長と理職との交渉

学部長と理職との定例交渉は4月19日及び5月24日に理学部会議室で行われた。主な内容は、以下の通りである。

1. 職員の待遇改善問題について

4月1日付で掛主任への昇格等が実現したことについて、理職は当局の努力を多としながらも、更に今後の努力求めた。学部長は、特に教務職員の助手振替えのため概算要求を行うとともに、今後も待遇改善に努力したいと述べた。

2. 85年問題について

理職は、1985年3月期退職予定者のポスト定員削減を除く勤務延長、定員外職員の定員化等により、すべて補充するよう具体例を交えながら強く要望した。学部長は、理職の主張に理解を示したが状況はきびしいと述べた。また、基本的には全員補充が実現するよう努力していくが、同時に、補充が認められない場合も考え、一部業務の外注のための概算要求も行うつもりであると表明した。

3. 「若手研究者問題」について

いわゆる総長補佐会文書について自由な討論を進めるため、理学部教官懇談会を持つことに合意し、5月18日学部長主催で行われ活発な論議が展開された。学部長は、現在在職中の助手について任期制を適用することは考えられないと述べた。

4. 健康管理問題について

学部長は、この問題については飯山評議員に担当をお願いした旨のべた。具体的には、まず職員に対してアンケート調査を行い、それをふまえて関係機関に要望を伝えることが考えられると答えた。

5. その他

行口適用の技官で具体的職務内容からみて、行(一)への格付変更が妥当であるケースがあるとの要望が出され、学部長は検討したい旨述べた。

あなたです！

火事を出すのも

防ぐのも

海外渡航者

＜ 5 月 ＞

所属	官職	氏名	渡航先国	渡航期間	渡航目的
物理	助教授	佐藤勝彦	アメリカ合衆国	5. 1～5.12	「内部空間及び外部空間」宇宙物理学・素粒子物理学の境界物理に関する研究集会に出席及び宇宙物理学に関する研究打ち合せのため
天文	助手	中田好一	アメリカ合衆国	5.16.～7.31	天文物理学に関する研究のため
素粒子	助手	蓑輪真	スイス	5.11～5.24	国際協同実験電子・陽電子衝突実験のため
地物研	助教授	小川利紘	フランス	5. 5～5.16	気球比較観測データ検討会出席のため
地物研	助手	岩上直幹	フランス	5. 5～5.16	気球比較観測データ検討会出席のため
地物	教授	小嶋稔	ドイツ連邦 アメリカ合衆国 フランス ソビエト連邦	5. 9～8.26	アメリカ地球物理学連合年会, 万国地質学総会及び太陽系同位体比国際コロキウム出席及び地球年代学に関する研究打ち合せのため
化学	教授	向山光昭	イタリア	5.18～5.30	有機化学会議 (IASOC) に出席及び有機合成化学に関する研究打ち合せのため
物理	助手	清水清孝	ドイツ連邦共和国	5. 9～8. 8	原子核理論に関する共同研究のため
地理	助手	久保幸夫	アメリカ合衆国	5.12～5.23	コンピュータ・グラフィックス'84参加及び人文地理学に関する研究連絡のため
中間子	助手	今里純	スイス	5.14～11.30	SINでの負ミュオンビームを用いた実験研究のため
地質	助教授	吉田鎮男	アメリカ合衆国 カナダ	60. 5.25～3.24	造山帯における岩石変形機構の解析のため
植物	助手	大隅良典	ポルトガル フランス	5.26～6.18	酵母の膜輸送に関するワークショップ及び細胞生物学に関する研究打ち合せのため
物理	教授	西島和彦	アメリカ合衆国	5.14～6. 4	「弱い相互作用に関する50年」についての国際会議出席及び素粒子論に関する研究打ち合せのため
地質	助手	鹿園直建	大韓民国	5.15～5.21	三宝鉾山のフィールド調査研究のため
素粒子	助手	小林富雄	スイス	5.15～7.15	国際協同実験電子・陽電子衝突実験のため
植物園	助手	邑田仁	大韓民国	5.25～6. 8	韓国産高等植物 (特にテンナンショウ類) の研究のため
物理	教授	和田昭允	アメリカ合衆国	5.28～6. 3	癌の分子生物学的研究に関する会議に出席のため
数学	教授	木村俊房	フランス	5.30～7. 1	微分方程式の研究のため

＜ 6 月 ＞

所属	官職	氏名	渡航先国	渡航期間	渡航目的
地理	教授	阪口 豊	シリア	6.18～9.13	第6次東京大学西アジア洪積世人類遺跡調査のため
物理	技官	田中 光明	アメリカ合衆国	6.17～6.24	日米科学技術協力事業の一環として「電子・陽電子衝突型加速器による新粒子検出実験」に参加するため
物理	助教授	折戸 周治	スイス	6.16～6.29	国際協同実験電子・陽電子衝突実験のため
物理	助手	藤井 啓文	アメリカ合衆国	6.17～6.24	日米科学技術協力事業の一環として「電子・陽電子衝突型加速器による新粒子検出実験」に参加するため
化学	教授	大木 道則	アメリカ合衆国 カナダ	6.10～6.17	1984環太平洋国際化学会議準備委員会出席のため
情報	教授	国井 利泰	アメリカ合衆国	6.3～6.14	第8回ロボット展及び会議出席のため
物理	助教授	小林 孝嘉	アメリカ合衆国	6.11～6.24	「国際量子エレクトロニクス会議」, 「超高速現象国際シンポジウム」 及び「レーザー及び電子光学に関する国際会議」に出席するため
物理	教授	小柴 昌俊	イタリア	6.3～6.8	素粒子実験に関する調査・研究のため
物理	助教授	永宮 正治	ソビエト連邦 フィンランド	6.15～6.25	クオーク物質'84国際会議及び高エネルギー物理国際会議出席のため
動物	教授	代谷 次夫	アメリカ合衆国	6.26～7.25	第9回国際光生物学会議出席及び発生生理学に関する研究連絡のため
生化	助手	須藤 和夫	アメリカ合衆国	6.30～7.9	筋肉に関するゴードン研究会議出席のため
物理	教授	二宮 敏行	アメリカ合衆国	6.15～6.24	「固体中の転位：最近の進歩」シンポジウム出席のため
物理	教授	有馬 朗人	連合王国	6.17～7.1	原子核構造の研究連絡のため
植物	教授	飯野 徹雄	アメリカ合衆国	6.23～6.28	第5回日米合同ワークショップ 「宿主-ベクター糸の最近の進歩」 に出席するため
化学	助教授	内藤 周弼	連合王国 ドイツ連邦共和国	6.26～7.14	酸化物表面での吸着と触媒作用シンポジウム及び第8回国際触媒会議出席のため
化学	助教授	岩澤 康裕	アメリカ合衆国 ドイツ連邦共和国	6.14～7.11	ゴードン会議及び第8回国際触媒会議出席並びに研究視察のため
物理	助教授	堀田 凱樹	ギリシア	6.22～7.4	分子発生生物学ワークショップ参加のため
動物	助手	守 隆夫	アメリカ合衆国	6.22～7.6	プロラクチンに関する第4回国際会議出席及び内分泌学に関する研究連絡のため

所属	官職	氏名	渡航先国	渡航期間	渡航目的
中間子	助教授	永嶺謙忠	アメリカ合衆国	6. 6～6.11	ミュオン触媒核融合国際会議出席のため
地物研	教授	玉尾 孜	オーストリア ドイツ連邦共和国 連 合 王 国	6.23～7.14	国際磁気圏研究 (IMS) の成果シンポジウム及び国際宇宙空間科学連合 (COSPAR) 総会に出席のため
物 理	助 手	石 井 克 哉	アメリカ合衆国	6.23～7. 2	アメリカ航空宇宙学会第17回流体力学・プラズマ力学・レーザー会議出席及び研究連絡のため
物 理	助教授	若 林 健 之	アメリカ合衆国	6.29～7.12	筋収縮に関するゴードン研究会議に出席及び生物物理学に関する研究打ち合せのため

外国人客員研究員報告

所 属	受け入れ 教 官	国籍	氏 名	現 職	研究員 期 間	備 考
地 質	久城教授	連合王国	C.M. Scarfe	アルバータ大学教授	59. 6. 1 } 60. 2. 28	JSPS 外国人招へい研 究者
物 理	宮沢教授	アメリカ 合 衆 国	Toichiro KINOSHITA	コーネル大学教授	59. 5. 28 } 59. 7. 21	
数 学	岩堀教授	シンガポ ー ル	Chong Chi Tat	シンガポール大学 上級講師	59. 7. 1 } 59. 9. 28	JSPS 東南アジア諸国 招へい研究者
鉱 物	床次教授	カナダ	Gabrielle DoNNAY	マギル大学教授	59. 5. 7 } 59. 7. 12	JSPS 日本・カナダ共 同
物 理	有馬教授	アメリカ 合 衆 国	Ryoichi SEKI	カリフォルニア州立 大学 (ノースリッジ) 教授	59. 9. 16 } 59.11. 24	アメリカ DOE

毎月 1 日は

「省エネルギー」

の日です。

ソフトボールの部 理学部(A)初優勝遂げる

昭和59年度東京大学職員レクリエーション行事は、4月17日(火)ソフトボールの部(種目)をかわきりに11種目にわたって部局対抗戦が開幕された。本学においても熟年、高令化などをひとときわ耳にする昨今ではあかが、このソフトボールの部のチーム構成は、40才以上の男子及び女子とされ、1チームに50才以上の男子あるいは女子が1名以上常時出場するものときめられている。10人制、盗塁なし、離塁制限などがあり、とても変則なルールで行われ、それだけにレクリエーションとしてまさに相応しい種目でもある。よって、対抗意識も他種目に比べ強く、盛り上がりも相当なものであった。

今年度は、38チームが出場(部局出場数制限あり)し、理学部からは、(A)・(B)・(C)の3チームがエントリーした。(C)チームは開幕戦に農(A)に敗退し、理(B)も工(B)に初戦で敗退したが、理(A)は、準々決勝、準決勝とともに劇的なサヨナラ勝ちをおさめ、決勝戦は農学部(A)に12:1で大勝し、見事初優勝を成遂げた。因みに、理(A)は、前(58)年度3位、前々(57)年度準優勝しており、悲願達成とも、実力の勝利ともいえよう。なお、対戦結果及び理(A)選手は次のとおりである。

○理学部(A)チームメンバー

(順不同、敬称略)、()は所属

吉本勝利(化学)

杉本瑛(化学)

岡崎廉治(化学)
広岡知彦(化学)
杉浦俊勝(化学)
中村暢男(化学)
中泉明美(化学)
梅津恒(化学)
長沢勝明(物理)
遠山潤志(物理)
榎本邦明(地球物理)
川村正義(地物研)
広重武文(事務)
宮崎松蔵(事務)
山本弘美(事務)
星圭介(事務)
三浦俊暁(事務)
青木道子(事務)
菊池敏昭(事務)

以上 19名

なお、職員のレクリエーションの根本基準とは：職員の健全な文化、教養、体育等の活動を通じて、その元気を回復し、及び相互の緊密度を高め、並びに勤務能率の発揮及び増進に資するものでなければならない。——となっているそう。よって職員は、レクリエーションに積極的に参加し、この精神にかえり、理学部並びに職員の更なる発展に努めましょう。

(事務部・菊)

編集後記

今回は、原稿が集まらないのではないかという危機感から、多くの方にご無理をお願いしました。結果的には、お蔭様で、大変面白い記事をいただくことができました。どうもありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。（矢崎）

編集：

松野太郎(地物)	内線	4299
佐佐木行美(化学)		4359
田賀井篤平(鉱物)		4544
尾本恵市(人類)		4482
矢崎紘一(物理)		4123
